

## 家庭血圧測定の遠隔モニタリングと薬剤師による血圧管理の効果

アメリカ合衆国における高血圧患者のうち、血圧をコントロールできているのはおよそ半数のみである。コントロールできていない高血圧患者の血圧管理を改善できる実質的な継続できる方法が必要である。そこで、家庭血圧測定の遠隔モニタリングと薬剤師による血圧管理を組み合わせた介入が、通常の処置と比較して、血圧コントロールがより改善されるか、そして、介入を終えた後も状態が維持されるかを検討した。

ミネソタ州の 16 カ所の診療所の、血圧コントロールができていない成人 450 人を対象に、12 ヶ月間の介入と介入終了後 6 ヶ月の追跡調査を行った。8 カ所の診療所では通常の処置を (222 人)、別の 8 カ所の診療所では遠隔モニタリングの介入を (228 人) 行った。介入群の患者には、家庭血圧の遠隔モニタリングと、そのデータに応じた薬剤師による血圧管理を施した。被験者は、女性が 45%、白人が 82%、平均年齢 61.1 歳で、平均収縮期血圧 148mmHg、平均拡張期血圧 85mmHg であった。血圧がコントロールされた人の割合は、遠隔モニタリング群では 6 ヶ月目で 71.8%、12 ヶ月目で 71.2%、18 ヶ月目 (介入終了後 6 ヶ月) で 71.8% であった。通常の処置群ではそれぞれ、45.2%、52.8%、57.1% であった。6 ヶ月目と 12 ヶ月目においては、遠隔モニタリング群のほうが通常の処置群に比べて血圧管理された患者の割合が有意に多かった。また、収縮期血圧の介入前後での変化は、遠隔モニタリング群においてより有意に低下し、6 ヶ月目で -10.7mmHg、12 ヶ月目で -9.7mmHg となった。

したがって、12 ヶ月間にわたる家庭血圧測定の遠隔モニタリングと薬剤師による管理により、通常の処置と比較して、よりよく血圧が管理され、その後 6 ヶ月間その状態が維持できることが示された。

出典 : Journal of American Medical Association 2013; 310: 46-56